

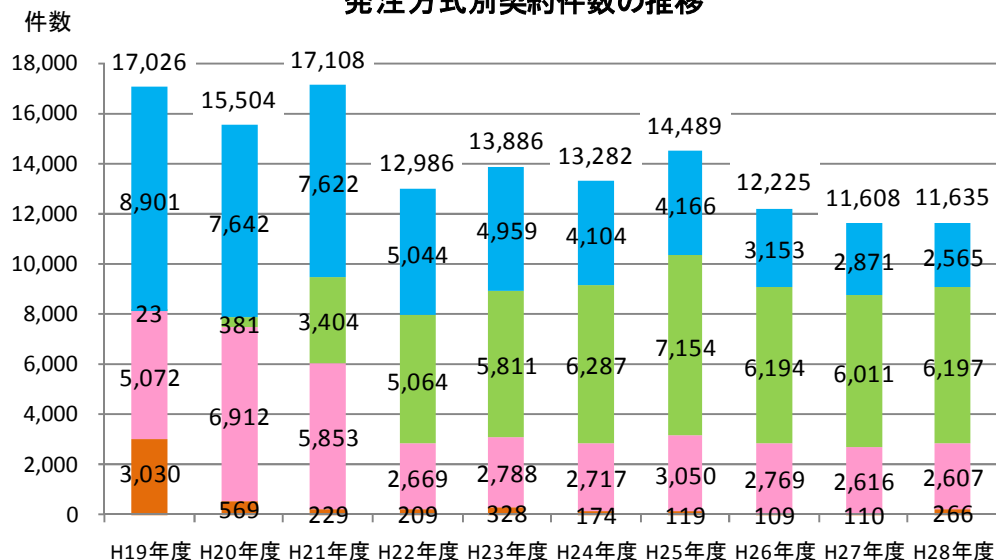
総合評価落札方式の改善について

総合評価落札方式の現状

➤ 総合評価落札方式導入以降、件数割合は過去最大。金額割合は前年度と同水準

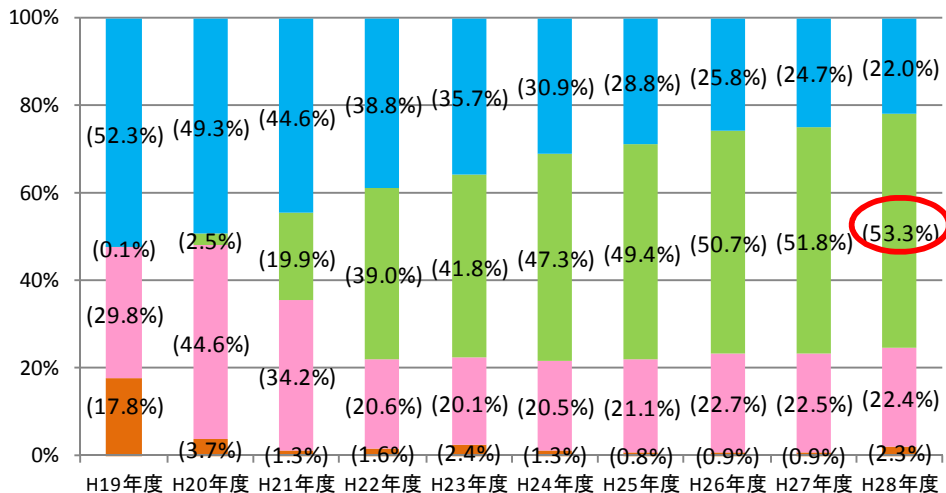
件数

発注方式別契約件数の推移



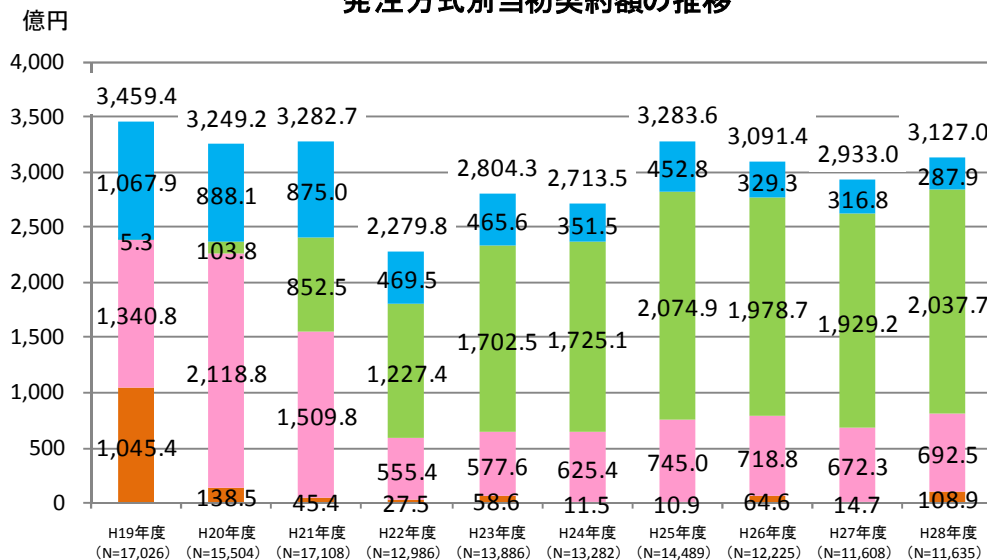
件数割合

発注方式別契約件数割合の推移



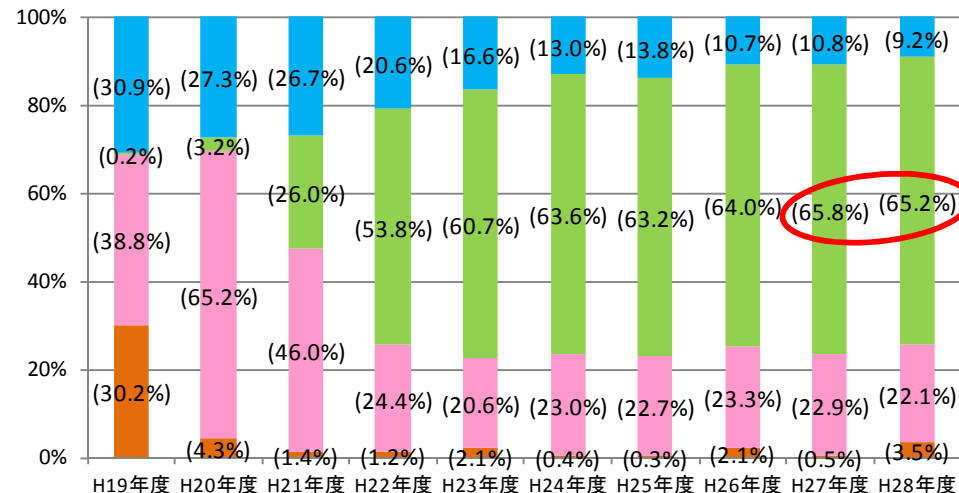
金額

発注方式別当初契約額の推移



億円割合

発注方式別当初契約額割合の推移



凡例： ■ 特命随意契約 ■ プロポーザル方式 ■ 総合評価落札方式 ■ 価格競争方式

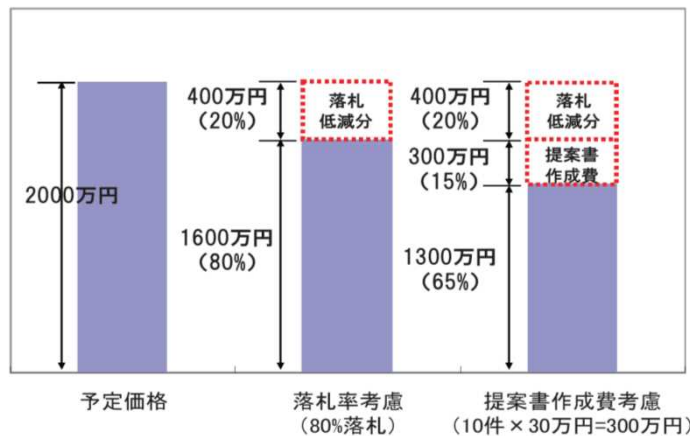
※北海道開発局+8地方整備局の業務を対象(港湾・空港関係を除く)

総合評価落札方式の課題①

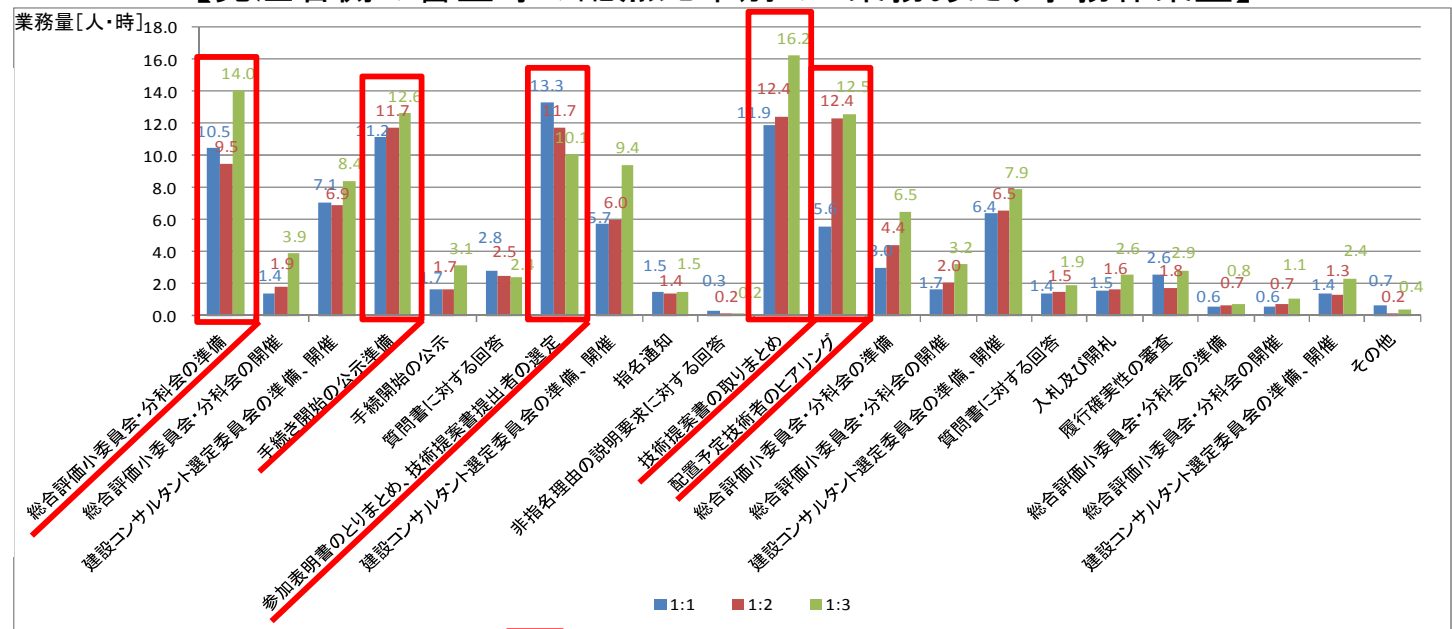
- 総合評価落札方式の標準型(1:2、1:3)の業務は、評価テーマに関する技術提案の作成や技術提案の審査とりまとめなど、受注者、発注者双方ともに、負担感が大きい
- 受注者における技術提案の作成には、落札の成否によらず一定の経費を要している
- 発注者が行う参加表明書や技術提案書のとりまとめ等に10人・時間以上を要している

【受注者側の技術提案書作成費】

【総合評価落札方式における企業負担例】



【発注者側の審査等の配点比率別の1業務あたり事務作業量】



※出典:「平成25年度 建設コンサルタント白書(H25.6) 一般社団法人 建設コンサルタンツ協会」

総合評価のタイプ	総合評価小委員会・分科会の準備	総合評価小委員会・分科会の開催	建設コンサルタント選定委員会の準備、開催	手続き開始の公示	質問書に対する回答	参加表明書のとりまとめ、技術提案書提出者の選定	建設コンサルタント選定委員会の準備、開催	指名通知	非指名理由の説明要求に対する回答	技術提案書の取りまとめ	配置予定技術者のヒアリング	総合評価小委員会・分科会の準備	総合評価小委員会・分科会の開催	建設コンサルタント選定委員会の準備、開催	質問書に対する回答	入札及び開札	履行確実性の審査	総合評価小委員会・分科会の準備	総合評価小委員会・分科会の開催	建設コンサルタント選定委員会の準備、開催	その他	合計	
1:1	10.5	1.4	7.1	11.2	1.7	2.8	13.3	5.7	1.5	0.3	11.9	5.6	3.0	1.7	6.4	1.4	1.5	2.6	0.6	0.6	1.4	0.7	93.3
1:2	9.5	1.9	6.9	11.7	1.7	2.5	11.7	6.0	1.4	0.2	12.4	12.4	4.4	2.0	6.5	1.5	1.6	1.8	0.7	0.7	1.3	0.2	101.8
1:3	14.0	3.9	8.4	12.6	3.1	2.4	10.1	9.4	1.5	0.2	16.2	12.5	6.5	3.2	7.9	1.9	2.6	2.9	0.8	1.1	2.4	0.4	129.4

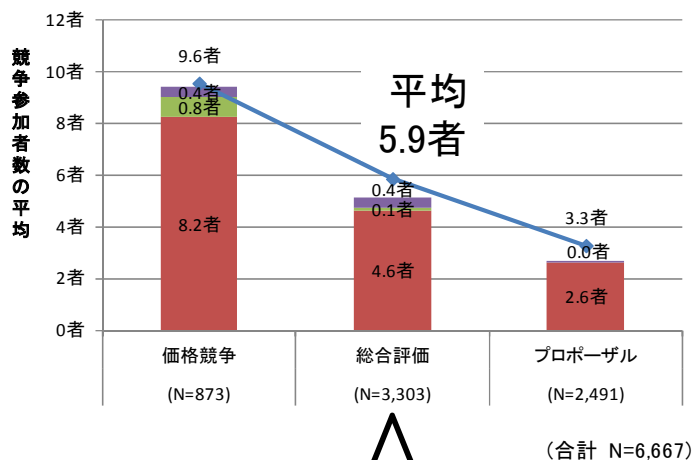
単位:人・時

総合評価落札方式の課題②

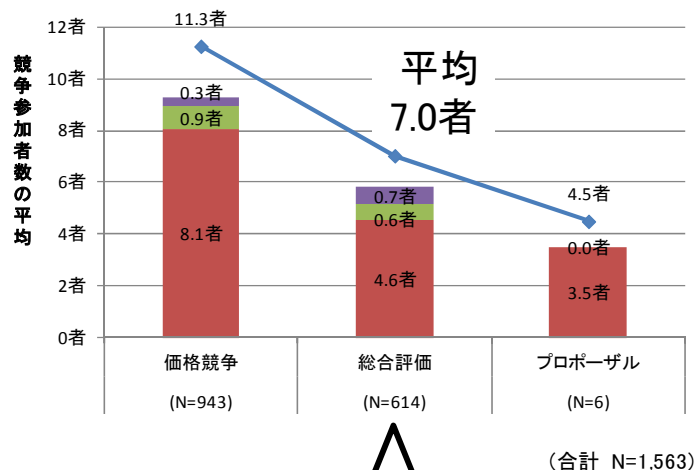
➤ 参加表明10者以上の割合は、土木コンサル21%、測量27%、地質42%と一定数あることから、受注者、発注者双方ともに、作業負担大

発注方式別 平均参加表明者数・競争参加者数（平成27年度）

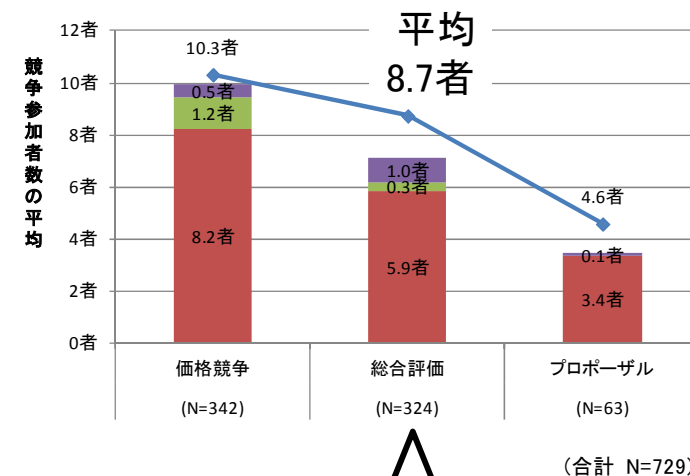
土木コンサル



測量



地質



土木コンサル(総合評価)
参加表明10者以上:
21%
(最大:37者)

測量(総合評価)
参加表明10者以上:
27%
(最大:35者)

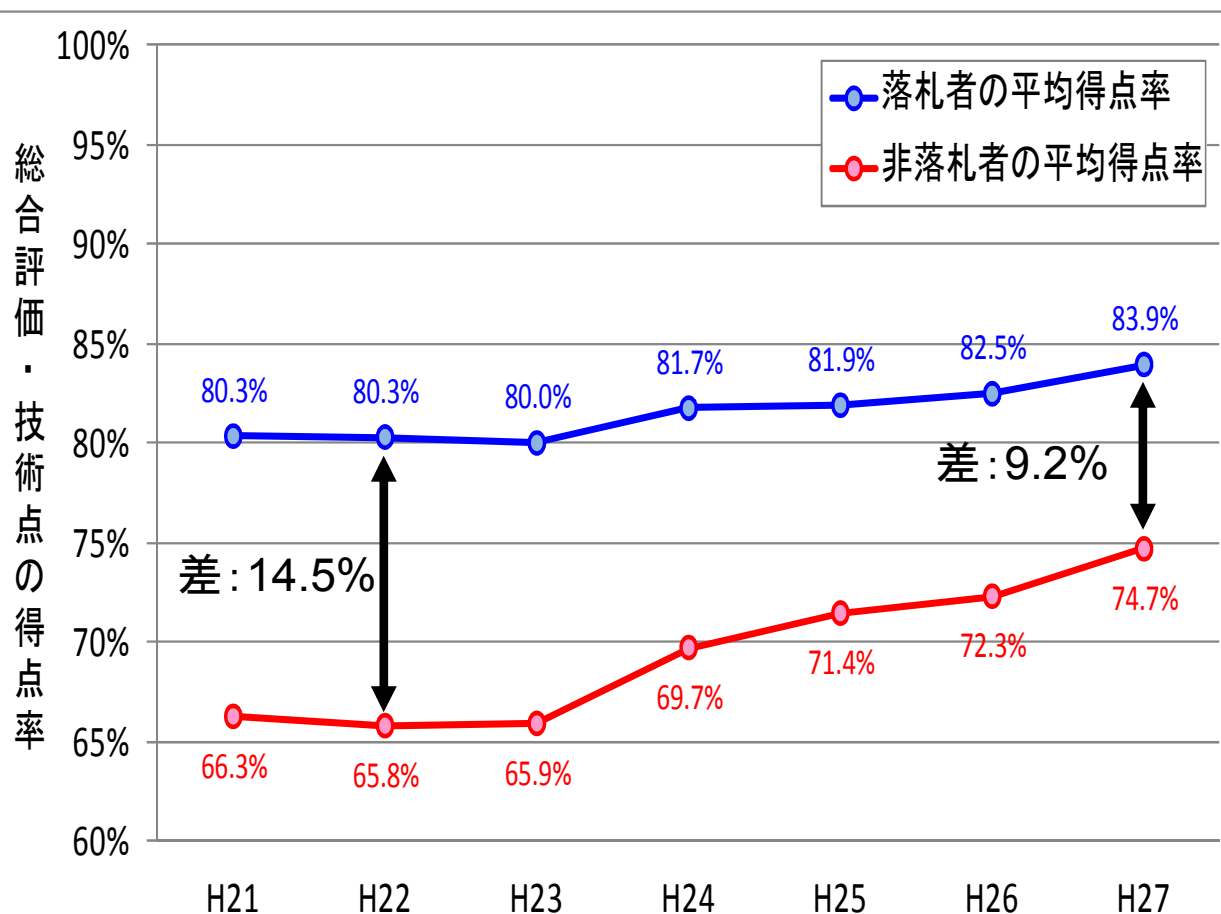
地質(総合評価)
参加表明10者以上:
42%
(最大:26者)

凡例:
■ 辞退・無効等
■ 競争参加者(予定価格超過)
■ 競争参加者(予定価格内)
◆ 参加表明者(平均)

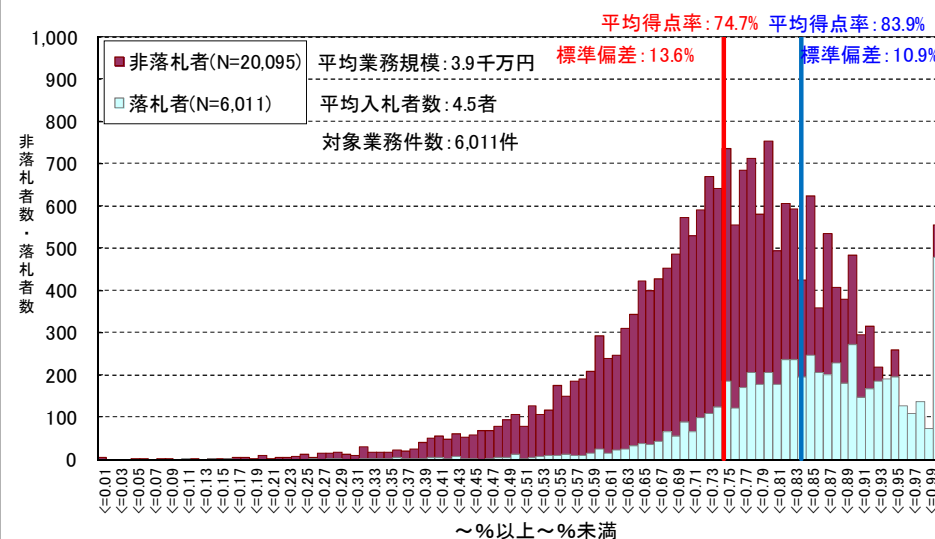
※参加表明者 : 一般競争では入札者すべて、公募型または簡易公募型業務では参加表明書提出者、及び指名競争(標準プロポーザル方式含む)では指名等が行われた者すべて
 ※競争参加者 : プロポーザル⇒企画競争へ参加した者
 ※辞退・無効等 : 総合評価、価格競争⇒入札を行ったすべての者(入札が無効となった者を除く) 入札が無効となった者、及び入札を辞退した者等

総合評価落札方式の課題③

- 総合評価落札方式の落札者の技術点の平均得点率は、経年的に上昇
非落札者の平均得点率も上昇
- 一方で、落札者と非落札者の得点率の差は、経年的に縮小



総合評価落札方式 技術点得点率の分布 (平成27年度)



※北海道開発局+8地方整備局の業務を対象(港湾・空港関係を除く)。 ※入札者数(非落札者数)に無効・辞退等を含まない。

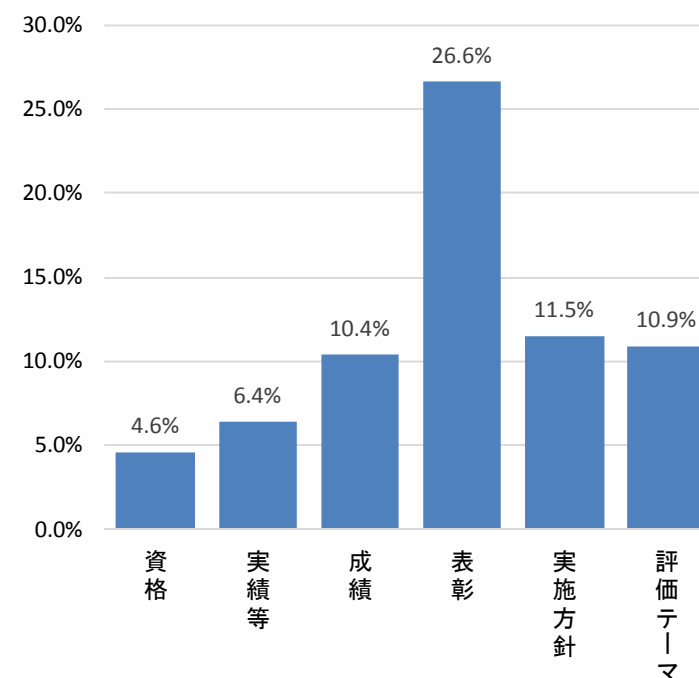
総合評価落札方式の課題③

- 各評価項目のうち、「資格」・「実績等」の平均得点率は高い傾向
- 「表彰」の平均得点率の差は、他の項目より大
(保有の有/無が評価点の加点の有/無に直結)
- 「実施方針」、「評価テーマ」の平均得点率の差は、「表彰」を除く他の項目より大

技術評価 評価項目別の得点率 (平成28年度 第1四半期 実績※)

	予定技術者				技術提案等	
	資格	実績等	成績	表彰	実施方針	評価テーマ
各項目1位の者						
①平均値	99.0%	99.2%	86.1%	71.4%	80.9%	77.6%
標準偏差	5.0%	5.9%	13.5%	41.8%	12.8%	18.9%
全入札参加者						
②平均値	94.4%	92.8%	75.7%	44.8%	69.4%	66.7%
標準偏差	13.1%	14.6%	18.9%	43.5%	16.7%	19.4%
差						
①-②	4.6%	6.4%	10.4%	26.6%	11.5%	10.9%

評価項目別の1位の平均得点率と全入札参加者の平均得点率の差



【参考】技術評価 配点割合の平均値 (平成28年度 第1四半期 実績※)

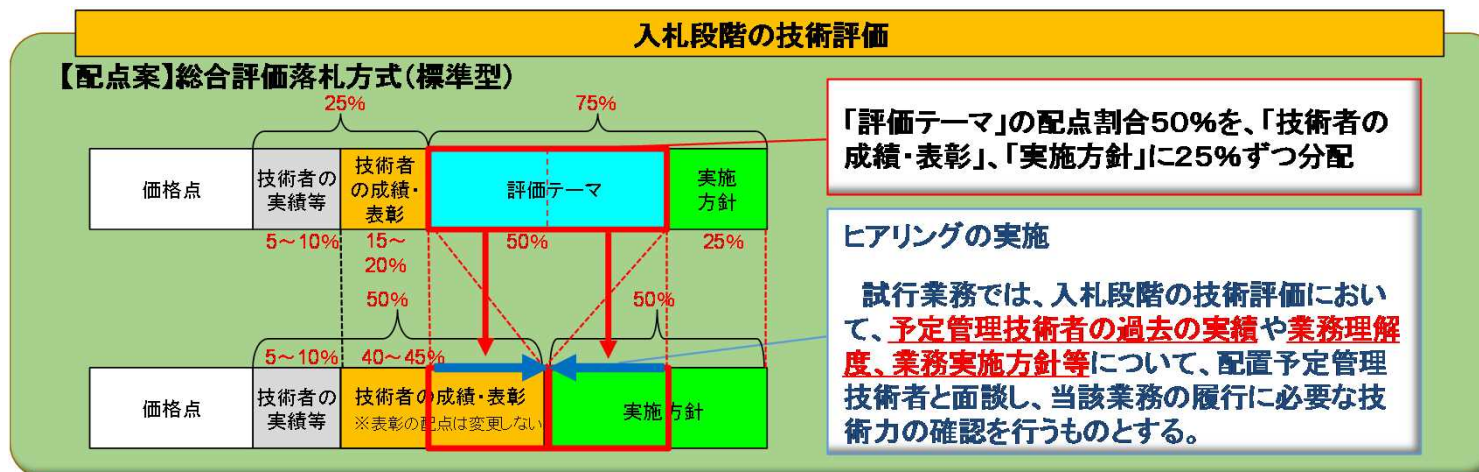
評価ウエイト	予定技術者				技術提案等	
	資格	実績等	成績	表彰	実施方針	評価テーマ
1:3	3.0%	7.0%	12.8%	2.2%	24.5%	50.5%
1:2	4.0%	10.2%	15.4%	3.7%	23.3%	43.4%
1:1	5.3%	15.5%	23.5%	5.7%	50.0%	-

※平成28年第1四半期契約の北海道開発局+8地方整備局の業務を対象(港湾・空港関係、発注者支援業務等を除く)。
数字は速報値のため、今後の精査により、変更することがある。

課題に対する対策(試行)①

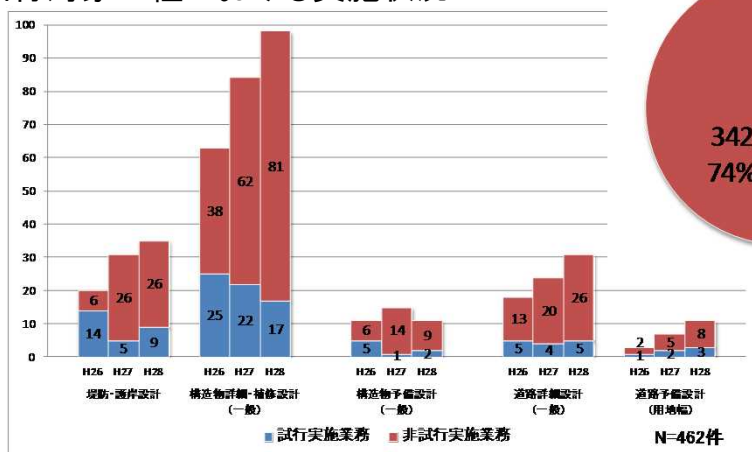
➤ 受注者、発注者双方の負担軽減のため、「評価テーマに代えて、技術者の過去の成績と実施方針に重点配分」の試行を実施中(H26.6.16公示案件から)

- 対象工種：河川事業：堤防・護岸設計
道路事業：道路予備（用地幅）、構造物予備（一般）、構造物詳細・補修設計（一般）、道路詳細（一般）
- 試行規模：実施件数は、上記工種毎に2割程度
- 発注方式：総合評価落札方式（1：3）

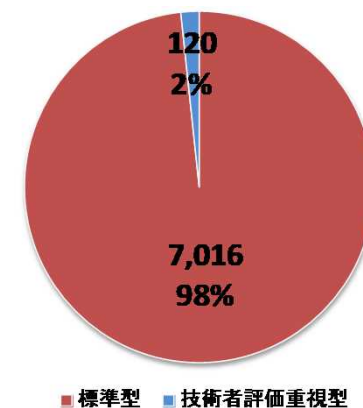
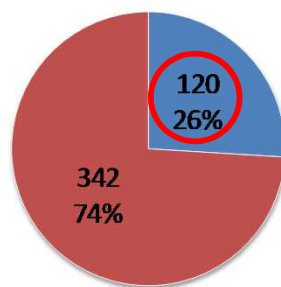


○試行業務件数：

試行対象工種における実施状況



総合評価(標準型)に占める実施割合



※H28の件数は速報値のため、今後の精査により、変更することがある。

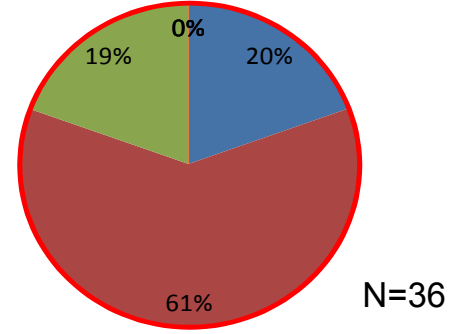
課題に対する対策(試行)①

○受発注者アンケート調査結果 (概要)

- ・「事務の簡素化」及び「技術力の評価」において、受発注者ともに試行への肯定的な意見が多数を占めた。
- ・自由意見で「試行の継続」に肯定的な意見があった。

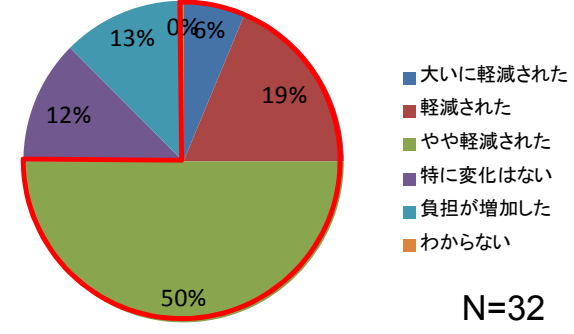
事務の簡素化

【受注者】技術提案書作成の負担



➤ 全ての受注者が技術提案書作成負担が軽減したと回答。

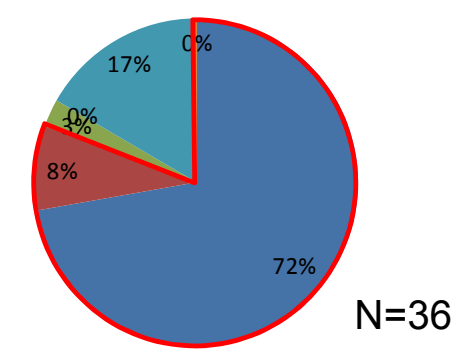
【発注者】入札・契約事務の負担の軽減



➤ 発注者の3/4が入札・契約事務負担が軽減したと回答。

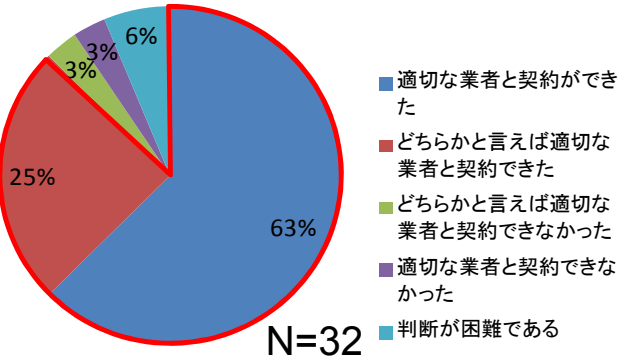
技術力の評価

【受注者】技術者の技術力の評価



➤ 受注者の約8割が技術者の技術力が評価されたと認識

【発注者】十分な技術力を有する者との契約



➤ 発注者の約9割が技術力を有する者と適切な契約ができたと回答。

主な自由意見

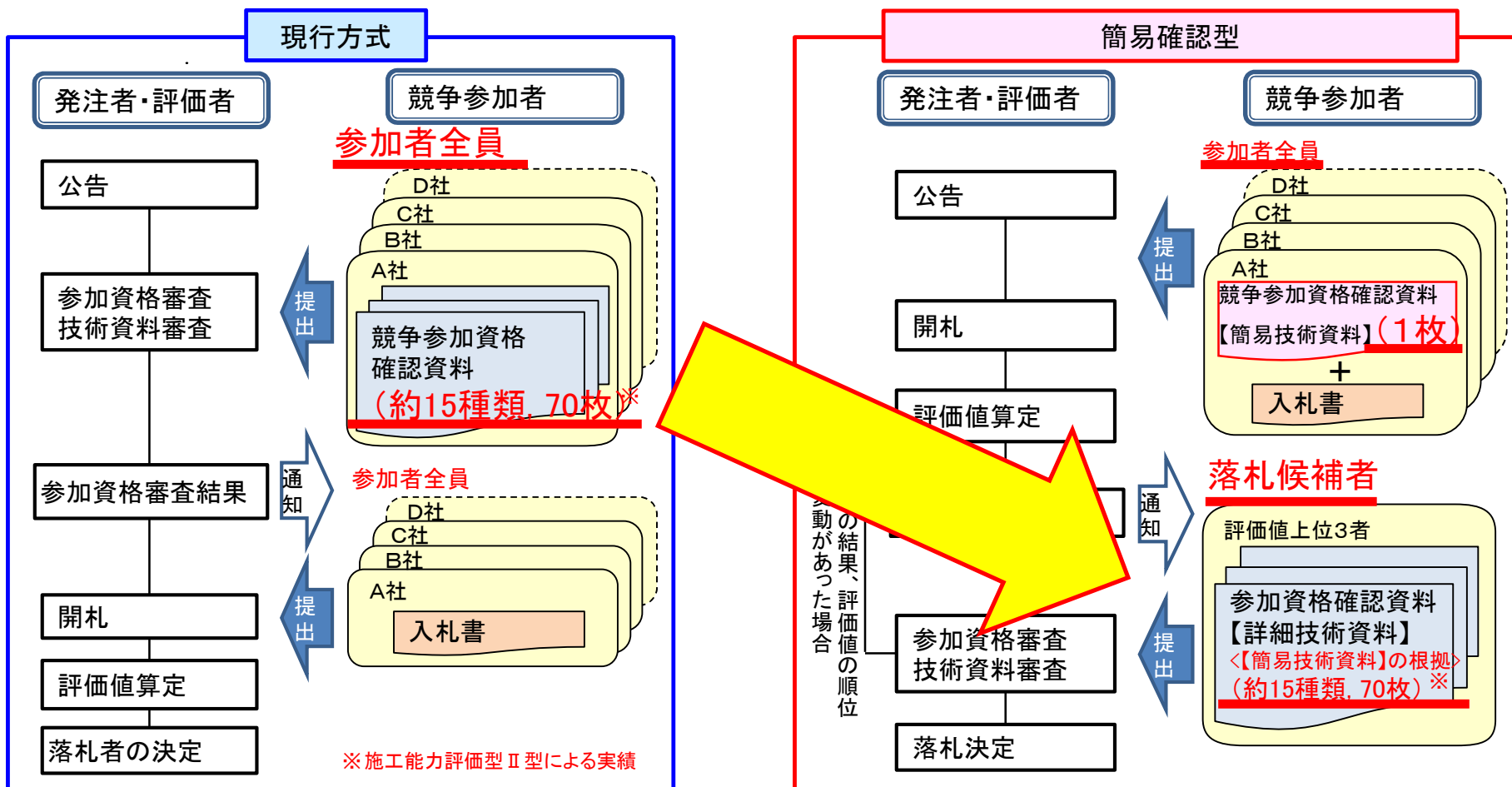
- #### 受注者
- 良い試行である。 9件
 - 試行を継続してもらいたい。 3件
 - 業務内容や現場特性に応じて、必要により、評価テーマの設定も必要である。 4件

- #### 発注者
- 本格導入には、業務内容等を踏まえて、柔軟に適用できるように配慮が必要である。 2件
 - ヒアリングの省略の検討も必要である。 3件

※「平成28年度 第1回 調査・設計等分野における品質確保に関する懇談会」資料

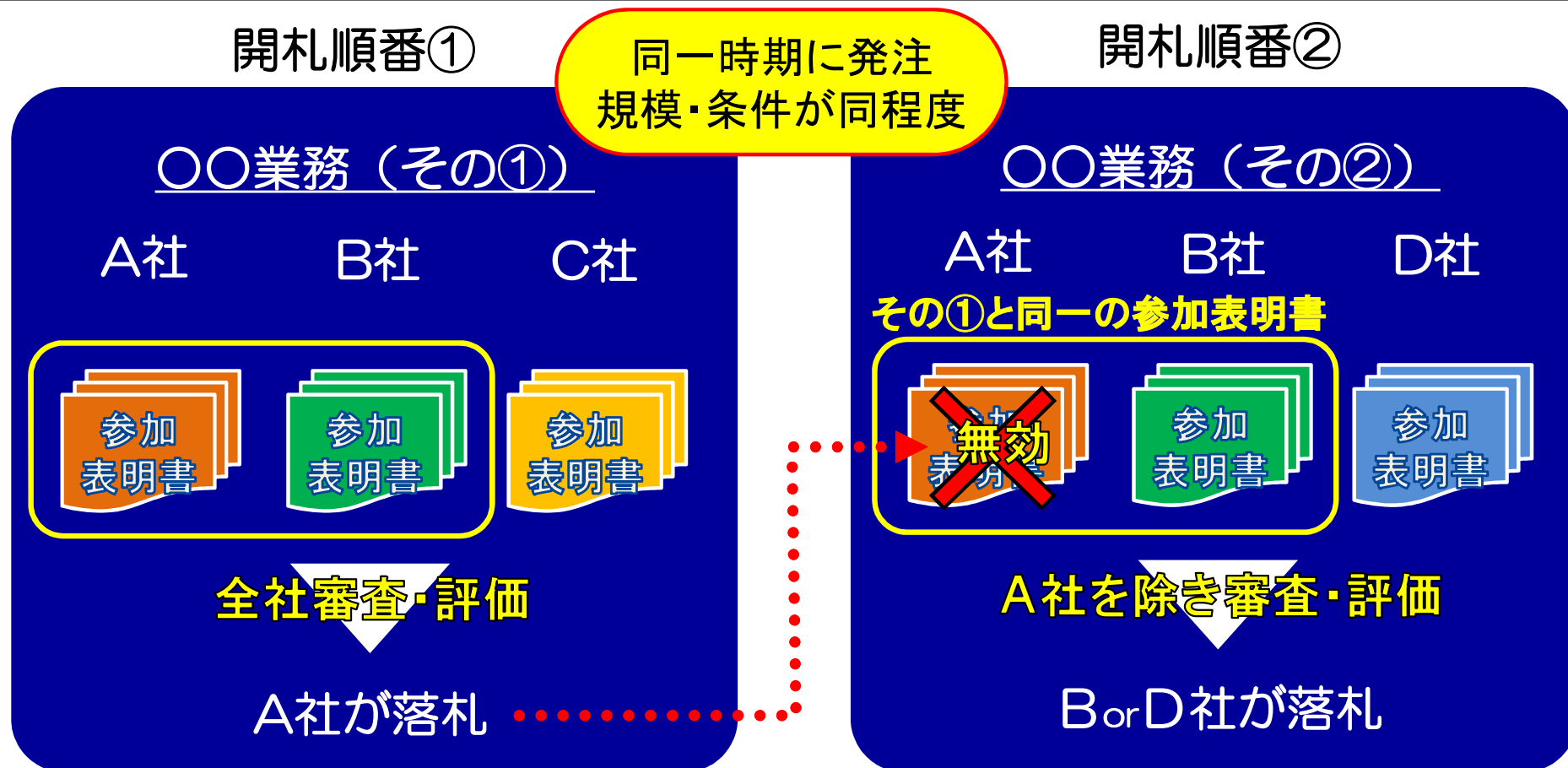
提出資料簡素化の取り組み(簡易確認型)

- 競争参加資格確認資料についてこれまで約15種類、70枚程度(※実績)提出していたが簡易技術資料1枚の提出に改め、評価値を算定する取組。具体的には、評価値上位3者を落札候補者として競争参加資格確認資料【詳細技術資料】の提出を求め、簡易技術資料の内容を確認
- 競争参加者には資料作成に係る負担軽減、発注者には技術審査に係る事務量の軽減が期待
- H28年度下半期より試行を開始し、H29年度は取り組みをさらに拡大



一括審査方式の導入(試行)

- 同一時期に発注される規模、条件が同程度の複数業務に入札参加する場合、同一の参加表明書により評価(H28.8公示より適用)
- あらかじめ定めた開札順番で開札し、落札者を決定(重複受注は認めない)
- 対象は、十分な競争性が確保でき、技術的難易度が比較的高くない総合評価落札方式で発注する業務(例えば災害時の測量・地質調査や設計業務などの実施期間・期限が限られている業務等)



論点

受発注者の負担の軽減

- ◆ **総合評価落札方式(1:3)「評価テーマに代えて、技術者の過去の成績と実施方針に重点配分」の試行結果から、受発注者の負担の軽減効果は確認されているが、評価における技術点のウエイトが高いことから、プロポーザル方式とのすみ分け等について検討すべきではないか【次回懇談会で継続審議】**
- ◆ **工事発注の「提出資料簡素化の取り組み(簡易確認型)」を業務発注にも導入するにあたり、簡易技術資料の記載に間違いがあった場合のペナルティ等留意すべきことはないか**
- ◆ **一括審査方式の導入にあたり、競争性や公正性の確保等留意すべきことはないか**

適切な技術力の評価のあり方

- ◆ **総合評価落札方式の評価項目別の表彰の得点率の差が大きいことから、その品質に与える影響も考慮しつつ、評価項目のウエイト等適切な技術力の評価のあり方について検討すべきではないか【次回懇談会で継続審議】**